

行せる當時既に云ひ盡し、現今斯界より遠ざかり居る小生には、警告致すべき資格無きかと存じ候。

たゞ同師に願ふところは、同師の自重あるのみに候。

○ 西 村 紫 紅

義大夫藝術ほど體力の強壯を要するものはあるまい。私は古靱師の至藝に一日も長く接したい希望から、先づ健康を要求する。そして益々深く練磨し、研究して、その妙趣を味はせて欲しいのである。

○ 田 中 煙 亭

拜復 古靱大夫師の紋下榮進に關し、不肖老骨にまで御懇書を拜し恐縮、直に御回答申上ぐる筈の處、客月來宿病稍々重り、苦惱の朝夕を送り候爲、遷延申譯無く候。右の次第にて、東上の文樂も遂に不參、師の妙音に接せず、豫ての感想とてあらためて申上ぐる程の事もなく、たゞ此上とも傳統の純眞藝術、所謂音曲の司たる義大夫節の完全なる保存、向上に努力し、後進の誘掖に盡瘁せられんことを希望する外なく延引ながら右まで。草々。

○ 久 保 田 金 僊

古靱大夫の紋下に昇格されたことは、誠に慶賀の至りです

また目下の淨界についてはさもあるべきこと也。且つ同師の従前よりの努力の然らしむるところとなづかれます。しかし、同師のあとをついで、誰れ／＼と指を屈しますか、其點については少々淋しい心持ちもいたします。依つて今後は同師に次ぐべき人々の養成を祈ります。

○ 岡 鬼 太 郎

御懇書拜誦仕候へ共、何の存じ寄りも無御座、乍折角御返事申上げ兼ね候。不惡思召し被下度候。

○ 河 野 國 聲

古靱師の事故、大いに人の言はぬ半面を書いて賞揚したいこと山々ですが、とても／＼忙しくて、筆執る暇が無いんです。書けたら書いて送りますが、間に合はなかつたら悪しからず。

○ 岡 本 井 筒

咲く花に向ふ敵無し鑑草——我が古靱師は其の人格、その研究、その技倆に於て、嶄然四邊を拂つて居る。また日本因協會々長として、文樂座統率者として東西一致、上下推薦するところ、而も從來の舊慣を廢して櫓下に還元したる事、流石古典を尊重する平素の主張と、新境開拓の雄志あり／＼と

發揮躍動し居るの感あつて、斯界のため欣快に堪へない。なほ、淨瑠璃人形芝居と呼稱を一定したる如き或は人形出遣ひに制限を加へたるなど正に新體制と云ふべく、今後徒らに素義と接近せざらんことを望み、更に師の藝術に鎧草の絢爛を期待し、最後に心から其の健康長壽を禱る。

○

高 安 吸 江

古鞞氏の淨瑠璃は専ら合理的な心理描寫に最善の努力を拂はれ一字一句を忽せにせず終始一貫緊張そのものであるから聽手はいつもその強い力にグン／＼と引きつけられ一段がすむと非常に疲勞を覺えて苦しい事があります。

此間の鰻谷などそのせぬか陰慘味があまり強過ぎ不快をさへ感じた位でした。

それで一段の中にどこか呼吸をやすめる個所があつてスーとした快い氣持になることが出来たら、そこに寛嚴よろしきを得て初めて完璧なものが出来上ると思ひます。

○

太 宰 施 門

新態勢の文樂とその槽下古鞞師に望むべきことは非常に多

い。ゆるゆるとは別の機會に述べることにして、ここでは簡単に二つ三つ。

氣長く遠い將來を見て事のまとまるやう、枝が花をつけ實を結ぶやう努力していただきたい。現勢への不満は右翼側も左翼の陣も、ともに聲を一にしてゐるが、何うそれを聽いて解決するかは仲々の大仕事である。大夫も三味線も人形も、またその背後周囲の人もし色の機關も、力を合せてなすべきこと、また勸説すべきことは目今のところ唯だ一つしか無いやうに思はれる。すなはち勉強することである。反省することである。さうして謙虛の心を忘れないで人に糺し、異論があれば十分述べて自分も妄を直し、また對手を啓蒙する。その手段を今の雑誌、「淨瑠璃雜誌」の上に見出すのも一つの良い方法であるやうに思はれる。

廣く言つてそれは研究を深めること、教育の振興である。

さうした方向に眞じめさが減つたとか、眞劍味が無くなつたとかいふ一部の批評を前に私は聞いた。それは三味線の誰がひどいとか、ある大夫の藝は何だとか、某人形の扱ひが無茶だとかといふ、個々のものに寄せられる糾弾より、何れくらゐ文樂にとつて不吉の前徴であるか分らない。それが全部嘘であるやうに、或ひはただ一部のことであるやうに私は希望する。

もとより現在の狀態を一段よい階位に進めるためには、何う考へても十年も二十年の月日が要りようである。初心の人